

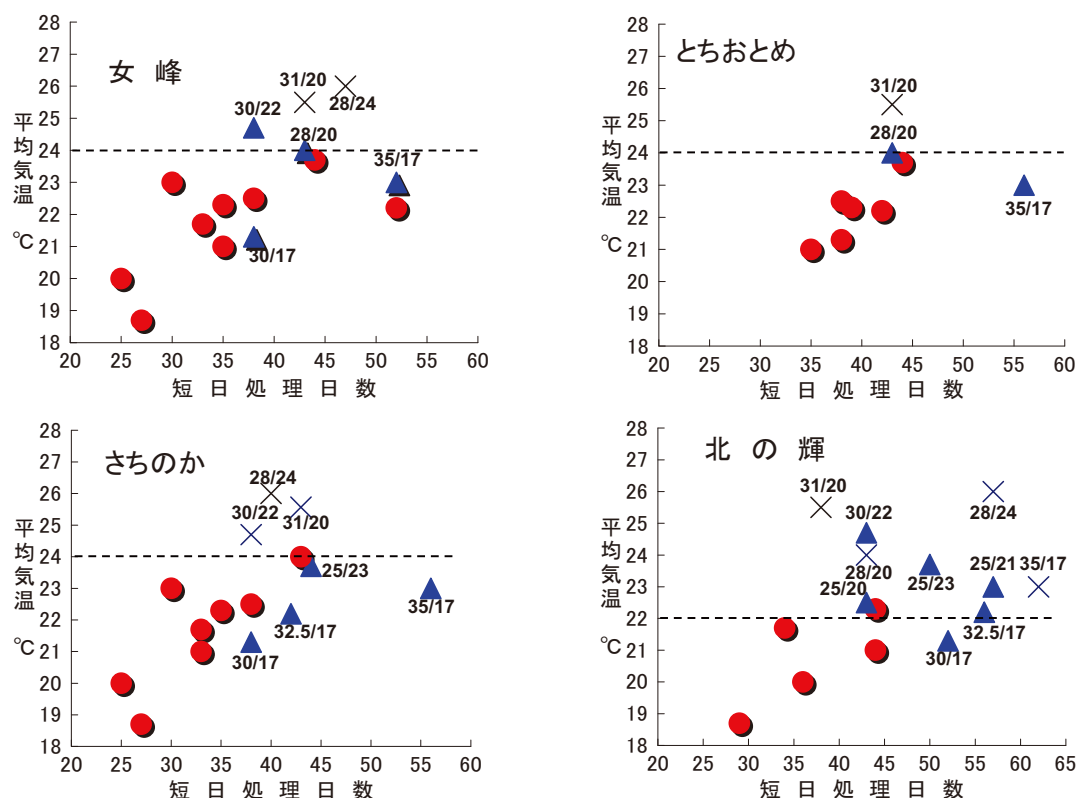
一季成り性イチゴの短日条件下における花芽分化可能な温度

研究のねらい

端境期である夏秋期のイチゴ生産を目的に、一季成り性品種の短日処理による夏秋どり作型が開発されている。これは夏季冷涼な東北地域の気候を生かすものであるが、処理時期が高温期にあたるため、花芽分化が不安定になりやすい。そこで、短日条件下における花芽分化可能な温度域を設定するため、人工気象室を用いて様々な温度域における花成反応を明らかにする。

成果の内容

- ① 8時間の短日処理下において、「女峰」、「さちのか」および「とちおとめ」では平均気温24℃以下で花芽分化可能であるが、22～24℃の範囲では花芽分化に35日以上を要する。一方、「北の輝」では、22℃以下で花芽分化可能であるが、最大45日間程度の処理が必要である（図1）。
- ② 平均気温が24℃または22℃以下であっても、昼温が30℃以上、または夜温が20℃以上になる場合には、花芽分化が遅れたり、未分化個体が混在することがある（図1）。
- ③ これらのことから、短日処理中はできるだけ昼温を上げないよう管理することが大切である。



図中の数字は、未分化の株がみられた区の昼温/夜温を示す
各処理区3～5株調査し、●：全株が花芽分化、▲：一部が未分化、×：全株が未分化

図1 8時間日長条件における一季成り性イチゴ品種の花芽分化に及ぼす平均気温および昼夜温の影響 (03～07年の5年間の結果)

成果の利活用

- ① 実際栽培では、必ず検鏡による花芽分化の確認を行うようにする。



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
電話 019-643-3414 (企画管理部情報広報課)
FAX 019-643-3588